

# 車中泊マニュアル 策定へ

## 熊本市 災害時 避難場所を指定

熊本地震の本震発生後、避難者が殺到した西山中。校庭は自家用車で埋まり、車中泊で一夜を明かす人も多かった。2016年4月16日夜、熊本市中央区



では「乳幼児やペットがいる」「余震が怖い」という理由から、避難所ではなく車の中で生活する人が相次いだ。各自が自由に場所を選んだため、避難状況の把握や支援物資の提供などに課題が残った。

マニュアルは、内閣府が策定した在宅・車中泊避難者に関する支援の手引きを参考にする。事前に指定する避難スペースは検討中。浸水や高潮などの危険性を考慮して判断する。エコノミークラス症候群への対策なども盛り込む方針。

22、23日には、市内で避難スペースの運営や車での避難生活を検証する初の実証実験を実施する。事前に募った参加者に約30台の車で実際に寝泊まりしてもらい、マニュアル策定に向けた課題を洗い出す。

市防災対策課は「車中泊では関連死を防ぐことが重要になる。避難者が使いやすく、実効性のあるマニュアルにしたい」と説明している。

(田村大介)

## 熊本地震

熊本市は大学や民間企業と連携し、熊本地震で課題となつた車中泊について、マニュアルの作成を進めている。車中泊向けの避難スペースを事前に指定し、避難者を誘導することで支援が行き届く環境を整える。本年度中の策定を目指す。

市が崇城大、コンサルタント会社「Bosaiech」（熊本市）と結んだ連携協定に基づく取り組み。2016年の熊本地震